

平成 24 年 8 月 21 日

各位

会社名	株式会社セルシード
代表者氏名	代表取締役社長 長谷川 幸雄 (コード番号：7776)
本店所在地	東京都新宿区若松町 33-8
問合せ先	取締役最高財務責任者管理部門長 細野 恭史
電話番号	03-5286-6231

「食道再生上皮シート」臨床研究の結果に関するお知らせ

共同研究先である東京女子医科大学大木岳志准講師らが中心となって平成 20 年より進められてきました培養自家口腔粘膜上皮細胞シート（「食道再生上皮シート」）に関する臨床研究が終了しその結果が論文として公表されましたので、概要をお知らせいたします。

今回の臨床研究は、食道がんを内視鏡手術で切除した直後の当該部位に食道再生上皮シートを移植することによる食道上皮組織の再生医療的治療に関するものです。近年内視鏡を用いて広範囲に及ぶがんを一度に切除する「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）」が開発され、食道がん治療にも普及しつつあります。しかしながら、ESD によって広い範囲の食道がん患部を切除した場合、切除後に生じる潰瘍が大きく、潰瘍に起因する狭窄（食道などの管器官の内径が非常に小さくなること）が問題になる場合があります。食道狭窄が発生しますと飲食物などが通過しにくくなるため、患者さまは内視鏡を用いた拡張処置を頻繁に受けることとなります。食道再生上皮シートには、食道がんを内視鏡切除した後の部位への移植を通じて、当該部位の食道上皮を速やかに再建して潰瘍の発生を抑制し、狭窄を防止する効果が期待されております。

今般大木准講師らが“Gastroenterology”誌（電子版）に発表した論文で報告された今回の臨床研究の結果は、以下のようなものでした（当社によるまとめ）。

- 論文で紹介された全 9 例のうち食道がんが内周の 1/2～3/4 に及んでいた 8 例では、食道再生上皮シート移植後には食道狭窄の発生及び飲食物の嚥下に関する支障が見られなかった
- またこれら 8 例では、食道再生上皮シート移植後 3～5 週間で食道上皮が再建された
- 一方、食道のほぼ全周に及びかつ食道と胃の接合部まで伸展していたがんを切除した後に切除部位の半分程度の面積に対して食道再生上皮シートを貼り付けた 1 例では、内視鏡下バルーン拡張術の実施（21 回）が必要となり飲食物の嚥下にも支障が見られた
- またこの 1 例では、食道再生上皮シート移植後の食道上皮再建に 23 週間かかった

上述のような効果が期待できる治療法は現時点でまだ確立されていないことから、今回の臨床研究によって食道再生上皮シートが食道がん切除後の治療に関する全く新しい治療手段になる可能性が示されたと考えることができます。

当社は、今回の臨床研究結果などを踏まえて食道再生上皮シートの事業化可能性を精査し、今後の開発計画などを策定する方針です。

なお、本件が平成 24 年 12 月期業績に与える影響は軽微であると考えております。

以 上